

アンゴラ共和国

【国名】

- 国名は、「ンゴラの人」。アンゴラの南部にあったンゴラ王国に由来しています。

【国旗】

- 赤と黒が闘争とアフリカ大陸，黄色は鉱物資源の豊かさを象徴しています。
- 星，歯車，刀は，工業労働者と農民を表しています。



アンゴラ国旗
出所：駐日アンゴラ大使館

【国土】

アフリカ大陸南西部大西洋に面する沿岸国。面積は日本の約3.3倍（約125万km²）。首都はルアンダ。人口は約2,978万人。



【建国の父：ネト初代大統領】

- 1922年、ポルトガル領アンゴラに生まれたネト大統領は、民族主義運動の傍ら、リスボン大学に留学し、医学を学びましたが、独立運動を理由に当局に逮捕され、カーボヴェルデやリスボン等に拘留されました。しかし、その後も脱走して国外から反ポルトガル闘争を継続し、1963年にMPLAの指導者に就任した後、アンゴラを独立に導きました。1975年11月11日の正式独立に伴って初代大統領に就任した後は、ソ連やキューバ等の共産圏に接近し、内戦時代にMPLAが支援を受ける素地を作りましたが、1979年モスクワで肝癌の手術を受けた後死去しました。
- ネト大統領の誕生日は「国家の創設者と国民英雄の日」とされている他、大学等の施設にネトの名が冠されています。

【資源①：石油】

- アフリカ第2位の産油国で、原油及び石油関連産品輸出は、総輸出の約96%、国家歳入の約46%、GDPの約30%を占めています。（日本の全石油輸入量に占めるアンゴラ産石油の割合は、0.3%です。）

【資源②：ダイヤモンド】

- 世界第6位のダイヤモンド生産国で、ダイヤモンド産業は、石油に次ぐ基幹産業です。宝飾用高級ダイヤモンドが中心で、その生産は21世紀に入り年平均10%前後で増加しています。

【観光】

- 2017年7月の世界遺産委員会にてザイレ州都ンバンザ・コンゴ（元コンゴ王国首都の痕跡）の世界遺産登録が決定しました。
- 国内には6つの国立公園，4つの部分自然保護区と2つの完全自然保護区があり，滝や河，湖，山脈，砂漠，窪地や洞窟，岩石組成など，様々な自然の風景が見られます。
- アンゴラは，2020年までに450万人の観光客達成を目指し，2018年3月30日以降，日本を含む61か国からの観光を目的とした旅行者に対する査証発給要件を緩和しました。



カランドウーラの滝

【アンゴラ特有の動物：パランカ・ネグラ】

- アンゴラにしか生息しないといわれる大型で長い角をもつ黒色の鹿：パランカ・ネグラはアンゴラのシンボルの一つです。
- 国営航空会社（TAAG）のマーク，サッカーのナショナルチームの名前に使用されています。

【ウエルウィッチア（和名「奇想天外」）】

- 南部ナミベ州の砂漠には，ウエルウィッチアという砂漠で早朝発生する霧により水分を得る植物が生息しています。アンゴラ以外ではナミビアのナミブ砂漠にも生息しています。

【食文化】

- 伝統的な主食は白メイズやキャッサバの粉でできた「フンジ」です。主に魚介類や肉を煮込んだスープをかけて食べます。
- 最近、寿司を中心に日本食を提供するレストランも増加しています。大きなスーパーでも寿司コーナーが設けられています。



ルアンダ市内スーパー

【スポーツ】

- 女子ハンドボールチームは長年にわたってアフリカのチャンピオンです。2017年、熊本県において開催された JAPAN CUP にも参加しています。
- バスケットボールチームもアフリカの強豪です。アフリカ選手権でこれまでに9度優勝しています。2006年8月に日本で開催された世界選手権にもアフリカ代表として出場しています。

- 男子サッカーは 2006 年のドイツ・ワールドカップに初出場しました。2010 年 1 月にはサッカーアフリカ選手権を主催し、ベスト 8 に選出されました。
- 切断障がい者サッカーも強豪です。2018 年 10 月末にメキシコで開催されたワールドカップメキシコ大会 では優勝しました。
- 空手や柔道等の日本由来の武道も広く親しまれており、競技人口は、柔道が約 27,000 名、空手が約 5,000 名です。

【音楽：センバ】

- ブラジルに連行された奴隷の多くが、現在のアンゴラにいた先住民であったことから、アンゴラの伝統音楽のセンバ(Semba)が、ブラジルのサンバのルーツと言われています。元々、豊穡、結婚、子供の誕生などを祝う際に奏でられたといわれています。

【文学】

- アンゴラの詩は 1960 年代の独立戦争の頃に大きく高揚しました。アゴスティーニョ・ネット（初代大統領）やマリオ・ピント・デ・アンドラーデ（MPLA 創設者）等，独立戦争の指導者により詩が作られました。
- 小説については，1935 年に，アンゴラ人作家による最初の小説である『死したる女の秘密』（アントニオ・アッシス・ジュニオル著作）が刊行しました。現代のアンゴラの著名な作家は，アンゴラ独立戦争における解放軍の戦士の心情描写を通してアンゴラ人のアイデンティティを描いた『マヨンベ』（1980）で知られるペペテラ等が挙げられます。ペペテラは，ポルトガル語作品のノーベル賞といわれるカモンイス賞を 1997 年に受賞しました。

【通貨】

- 独立以前は、貝殻、塩、象牙、布、ポルトガル統治下の通貨等を使用していましたが、独立後、現在の通貨であるクワンザが登場しました。
- クワンザという名は、アンゴラ最大の河川であるクワンザ川に由来します。古代の人々が川に生息していた貝殻を最初の通貨として使用し始めたため、川の名前が採用されました。